

目で見ると 明治大学の歩み

#89

100年前の母校——関東大震災と母校の復興

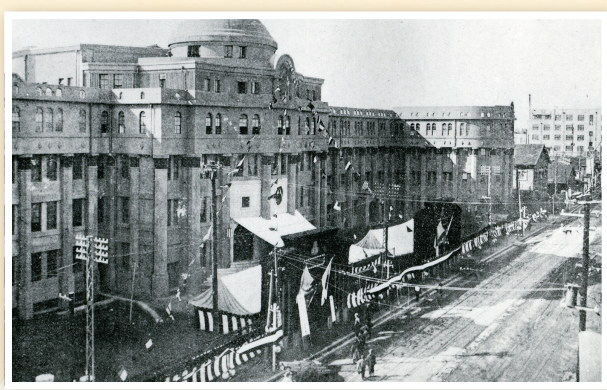
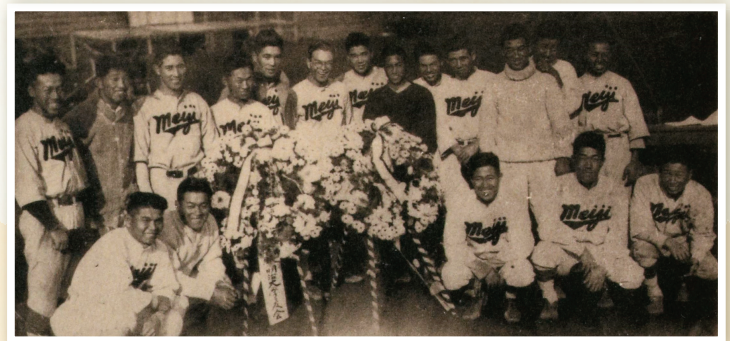
今回は100年前の母校を紹介します。周知のように、1923（大正12）年9月1日、関東大震災が発生しました。当時の駿河台キャンパスは火災により壊滅的な被害を受けましたが、学生・校友・教職員はもとより、ひろく一般からも寄付や援助が集まり、徐々に復興しました。その復興の象徴として、1928（昭和3）年4月に旧記念館（3代目記念館）において復興記念祝典が催されました。

大学史資料センター 阿部 裕樹

1923・1924年

五大学野球初優勝 （1923年11月）と 箱根駅伝優勝 （1924年1月）

震災から2カ月後、硬式野球部が五大学野球（現、東京六大学野球）秋季リーグ戦において初優勝を飾ったことや、競走部が震災翌年の箱根駅伝で優勝したことは明大関係者に明るい話題をもたらしました。



1928年

3代目記念館で開催された 復興記念祝典（1928年4月）

3代目（旧）記念館は復興のシンボル校舎として1928（昭和3）年3月に竣工しました。

1912年

関東大震災直前の 2代目記念館

2代目記念館は1912（大正元）年に竣工しました。



1924年

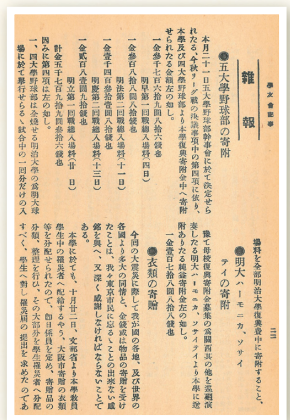


震災後の仮校舎（1924年）

1923年

『明治大学学報』 第85号記事 （1923年12月）

硬式野球部とハーモニカソサエティーによる寄付を伝えています。



1983年

3代目記念館 （1983年撮影）

3代目（旧）記念館は、1995（平成7）年の取り壊しまで明治大学を象徴する校舎として、学内外の多くの人びとの印象に残っています。

